



## 第6条 みんなちがって、それぞれにいい

同じことを前にしても、感じ方はちがいます。人それぞれであるということ。どちらが重たくて、どちらが軽いということは 本当はありません。ただ「そう感じている」ということが真実なのです。感じるままに。ちがいをちがいのままにリブオン「大切な人をなくした人のための権利条約」より

### 光に照らされて、盂蘭盆会



8月16日(水)午後2時より灯籠送り・歓喜会法要が厳修されました。今年は、十五仏の法縁でした。それぞれのお方を偲びつつ、有縁の方々がご参拝されました。阿弥陀如来の本願のはたらき(南無阿弥陀仏)によって浄土に生まれ、阿弥陀さまと同じ悟りを開かせていただく。仏さまに成らせていただきたいのちは、智慧と慈悲のはたらきとなってこの世に還ってきてくださいます。有縁の方々を、すべてのいのちを救わずにはおれないと、願い、導いていてくださっているのです。仏さまは、いつでも、どこでも、この私を照らし、包み込み、私の人生を仏道に、浄土へと歩ませていただく身にお育てくださるのです。その仏さまとなられたことを灯籠の灯として、形と表わして盂蘭盆会の法要でいとなんできました。今あらためて、死んでしまいいなくなったいのちではありません。「ひかりといのちきわまりない」仏さまは、合わす手に、南無阿弥陀仏と称える中に、おはたらきくださっているのです。これからも、様々に仏縁を大切にしていまいりましょう。



8月6日(火)台風が心配されましたが、お盆を迎えるにあたり、仏具のおみがきをしていただきました。同時に内陣の清掃も、井関さんにお手伝いいただき天井、梁もきれいになりました。

仏具も、新聞や金ブラシでゴシゴシと汚れを取り薬を付けて磨き上げます。また、油で汚れた皿もきれいにさせていただきました。手に力を込め、でも口は和気あいあいと、皆さまありがとうございました。



8月16日(水)今年の盆汁は中組が当番です。年に一度旧の正月とお盆の親鸞聖人御命日に順番に各組が集いお講をつとめ、仏法聴聞のご縁と、食事をして親睦を深めてまいりました。夏はさっぱりのお知らせしをおいしくいただきました。ありがとうございました。



8月19日(土)鈴鹿組で第2回ご縁ウォークが、今年は東海道関宿にある、延命寺さんを会場に開催され、老若男女参加されました。本堂で『讃仏偈』のあと、お寺の沿革、ご法話があり、参加者紹介、ふれあいゲームを楽しみました。そして、旧東海道の関宿の街並みをボランティアガイドさんの説明を聞きながらウォーキング。お寺も参拝しながら、ゆっくりとまわりました。今は国道沿いで、スタンド経営をされていますが、見学させていただいた油屋さんでは、当時行燈の油と、頭に塗っていた椿油の甕が、家の中に今も収められていました。往時の面影の中に今の暮らしが息づいています。



八月に入り広島、長崎の原爆投下記念式典が連日TVにて放映されています。決して忘れてはいけないことを心に誓いました。ところで、先日ある高校野球の補欠選手が、監督の裁量で親善試合に出場し、良い成績を残せたなら正選手として登録される、という内容の番組を見ました。補欠選手は親善試合にて、残念ながら、バッターボックスに立ち良い成績を残せずに、正選手には成れませんでしたが、学生時代を最後まで補欠選手として終わると思われていた彼が、チャンスを与えられ、それに挑戦できた、させてもらったことで心の悔いが少しは消えた内容でありました。実は、私も学生時代競技は違いますが、補欠選手として終えた事があり、自分を重ねてTVを観ていました。私の場合は、家が自営業だったので、その後を継ぐために、体力と根性を鍛えるためと、補欠でも何の悔いは無いと自分に言い聞かせて補欠選手の学生時代を終えました。今、この頃学生時代を思い出す時に、ボール、スパイクの磨き、諸先輩(正選手)の世話が主であり、往時の監督がその様な方(裁量の有る監督)であったら、私の人生観も少しは変わっていたかもしれないなと考える次第です。

北海道大島義勝

## 補欠選手の最後の夏



■ 先日NHKの番組を観て知った

「高校野球補欠選手の最後の夏」

監督の裁量で、親善試合に選手登録し選手としての最後のチャンスを与える

■ 或る補欠選手と、その家族が紹介され

家族一丸となつての応援に息子の決意レギュラーと補欠の違いは、何が違う最期のチャンス、正選手の座を掴むか

■ これが最後だと心に決めての親善試合

一巡目の打順でバッターを振れない二巡目の打順で一塁ゴロでアウトチャンスを生かせずに野球選手終わる

■ 監督の裁量に、心が熱くなり拍手する

最期のチャンスを与える度量に心開く思い込み、偏見への現状に一矢報いた補欠選手の顔から悔いは消えたようだ

「神宮親月会

応募作品入選歌」

宮川の

清き流れの川底に

ねむる小石に

朝日さしくる

「米」

いかるがの

秋の実りの古代米

根を張るそばに

いなごとびかふ

小笠原孝枝

八幡町横山さんとご姉弟で東京在住の小笠原様とのご縁がありました。

「短歌de胸キュン」に

ご出演の歌人佐伯裕子様の門弟として親しくされ

永く歌を詠まれておられます。神宮の献詠短歌に

も入選なさったり、感性豊かに表現が伝わってくる

素晴らしい歌を寄稿くださいました。

白檀の 香をただよはせ 金座敷

青蛙 梵字の窪みに 化身かな

病景の 散るや不祥事 多き国

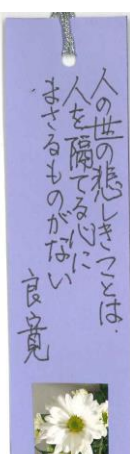
錫杖岳 歪んで見ゆる 残暑かな

蟬しぐれ はかなき命を謳歌して

遠雷に 離れ住む子を 想いけり

金逝くや 亡父と逢瀬の 夢嬉し

落合登代子

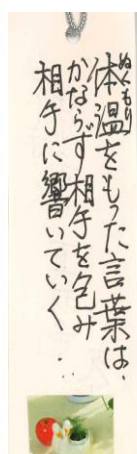


札幌市

大島

光子

さん



朝倉市

森田

瑛子

さん



初秋の取入れが始まる候となりました。コンパインが忙しく、楽しそうに動く姿が見られます。お米は、八十八と書きます。一粒の実りには水や季節や人の力など様々なおかげで授かったものです。なもあみだが、くれぐれもお大事に